

鶴間公園

東京都 町田市

- 30 運動の動機付け
- 32 運動の拠点
- 33 健康意識の醸成
- 34 運動の仲間づくり

運動広場をはじめとして誰もが自分のペースで楽しく運動できる環境が整っている

- 24 集える場の創出
- 25 サードプレイス

自由に過ごせるまちライブラリは居場所となる空間。外に出て人と本を通して交流することで、まちの豊かさを楽しむことができる。

- 06 アフォーダンス

水辺のベンチは自然と腰掛けたくなるようなデザイン

- 23 身近な緑の保全・創出

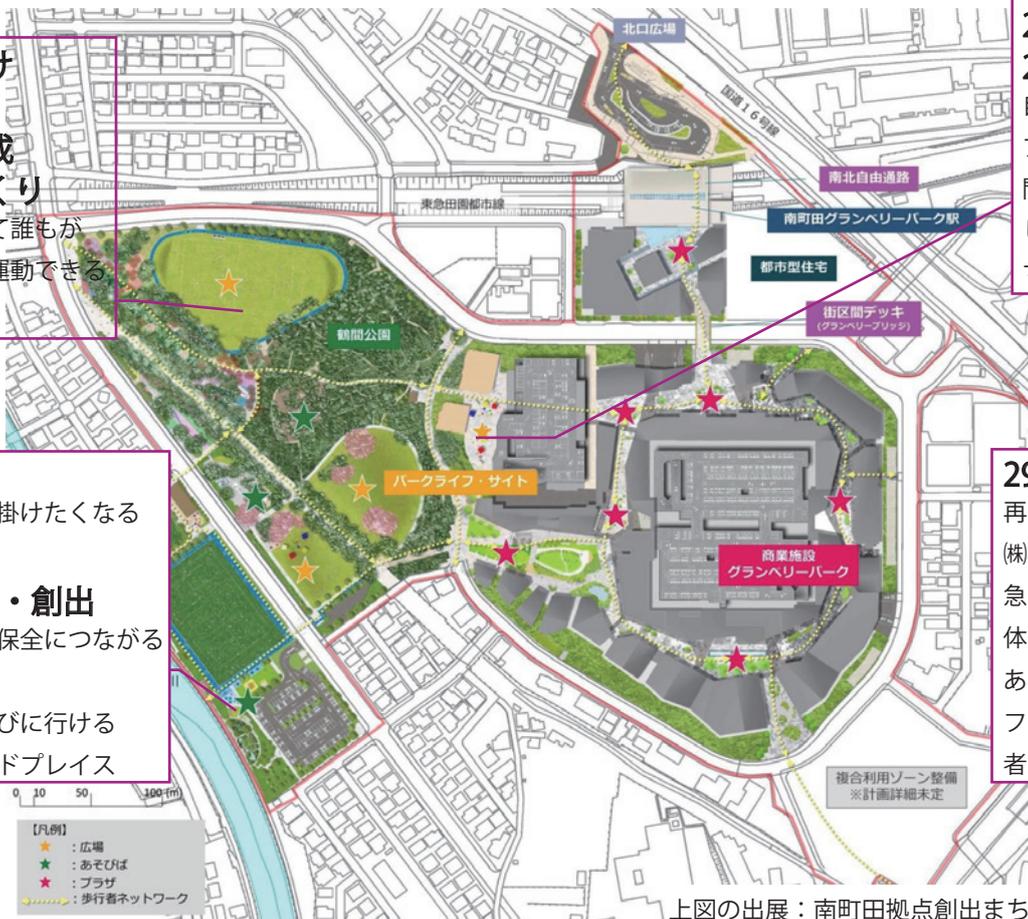
広範囲の公園整備は緑の保全につながる

- 25 サードプレイス

住宅街から近く気軽に遊びに行ける立地で、公園全体がサードプレイス

- 29' 指定管理者制度

再開発事業後、鶴間公園は(株)石勝エクステリア、(株)東京急スポーツシステム・日本体育施設(株)の共同企業体であるTSURUMAパークライフパートナーズが指定管理者を務めている。



上図の出展：南町田拠点創出まちづくりプロジェクト HP <https://minami-machida.town/future/>

2008年、町田市で南町田駅周辺地区整備計画検討会が発足した。そして、グランベリーモールが更新時期を迎えることから、官民の連携・協働によりまちの活力の維持に取り組もうと、グランベリーモール・鶴間公園・鶴間第二スポーツ広場を含むエリアで商業施設と都市公園の一体的な再整備を検討する協定を、町田市・東京急行電鉄株式会社間で2014年に締結した。商業施設・都市公園の一体的再整備にあたっては土地区画整理事業を行い、道路や公園等を再配置することとし、町田市・東京急行電鉄株式会社による共同実施をめざすための基本協定を結んだ。この官民連携・共同による再整備プロジェクトは南町田拠点創出まちづくりプロジェクトと称され、鶴間公園の計画づくりのための市民ワークショップが何度も行われてきた。

2019年、「充実したパークライフを体現するための、ウォークブルで持続可能なまちづくり」をコンセプトとし、(株)石勝エクステリア、(株)東京急スポーツシステム・日本体育施設の共同企業体である、TSURUMAパークライフパートナーズが鶴間公園の指定管理者となった。地域住民の憩いの場として親しまれてきた公園を、大きな構成はそのままに子どもから大人まで楽しめる公園に整備し、「心と身体が健康になり、「日常生活+α」が楽しめる公園」の実現を目指している。商業施設と隔てられていた街路を廃止し、住宅地を換地することで、5.7haだった公園が約7.1haまで広がった。

また、南町田拠点創出まちづくりプロジェクトでは、南北自由通路を起点として、商業施設、鶴間公園、境川まで、歩いて巡れるような歩行者ネットワークを形成している。自由通路から南側は、オープンモール型の商業施設の中だが、青空を仰ぎながらゆったりと歩ける、開放的な歩行者通路が鶴間公園や周辺住宅地へとつながっていくようなデザインである。歩いているうちにいつの間にか鶴間公園へと入り、境川まで到着することができる。こうした歩行者ネットワークは、エリア内を回遊して楽しむだけでなく、バリアフリーで安心安全なものにすることで、地域の日常的な生活動線としての役割も果たしている。

グランベリーパーク Active Design Map は、南町田グランベリーパークの街全体を利用した、散歩やランニングのためのモデルコースを示したものである。南町田グランベリーパークの街外周を回る外周コース(2.26km)・水道みちから先鶴間公園とグランベリーパークを回る内周コース(1.67km)・境川沿いの境川ゆっくりロード(11.68km)・駅～水のおそびばを回るプロムナード(0.60km)の4コースがあり、街全体を使った健康づくりの拠点として機能している。駅、商業施設、パークライフ・サイト、公園の全てを「街」として捉えているため、健康づくりの意識を鶴間公園内にとどまらずに街に開いていこうという意識が伺える。

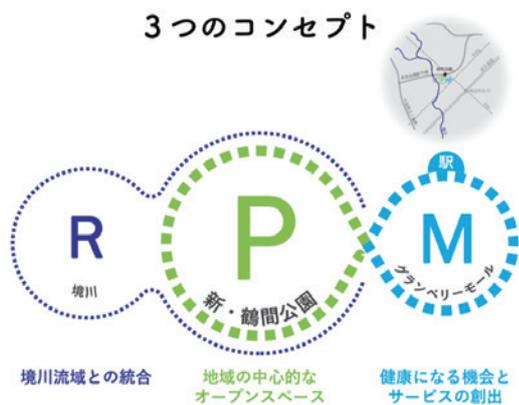


図1 鶴間公園の再開発事業の際のコンセプト
 (『健康・スポーツのためのオープンスペースのデザイン』より)

図2 南町田グランベリーパーク駅からアウトレットに直結している動線 (筆者撮影)



図3 グランベリーパーク Active Design Map
 (『いこレポ 南町田グランベリーパーク徹底ガイド』より)



図 4.5.6 鶴間公園内の健康遊具。大人専用で、自分のペースで無理なく楽しく運動できる。「健康づくり」を意識するきっかけを与えてくれる場。(鶴間公園 HP より)

この鶴間公園は、アウトレットモールである南町田グランベリーパークに隣接しているが、このアウトレットモールも公園も昔は里山だった。その風景を受け継いで、公園内のつるまの森では森の中の散策路や休憩スペース、ベンチなどで自然をじっくりと楽しむことができる。また、みどり豊かなこの公園には、大きな2つの芝生広場、グラウンドやテニスコート等の運動施設、子どもたちの3つのあそびば、クラブハウスなども内包していて、老若男女が思い思いの時間を過ごせる空間だ。運動するエリアではお年寄りのための健康遊具があったり、図4のような走る速さによってコースの分けられるランニングエリアがあったりと、様々な属性の人が快適に楽しく身体を動かせるような工夫がいたるところで感じられる。健康遊具は大人専用で、様々なタイプが設置されているため、自分のペースで無理なく運動できる。

アウトレットの帰りに公園に立ち寄った人に、健康づくりについて考えるきっかけを与えることも考えられる。ここの広場では定期的に運動のイベントなども開催されており、様々な年齢の人が運動を通して関われる場になっていて、まさに地域の中心的なオープンスペースだと言えるだろう。

また、スヌーピーミュージアムを含むパークライフ・サイトは、公園の玄関口のような機能を持つ。実際に子どもが屋内で遊べる児童館やまちライブラリーといった無料の公共施設などが入っている。まちライブラリーは利用者が本を持ち寄る図書館で、用意された本にはメッセージカードが添付され、読んだ人は感想を寄せることで、繋がりを持つことができる。一階に入っているカフェ同様に鶴間公園の眺めが気持ちいい図書館は、誰でも自由に利用できる。鶴間公園を中心とした一体の再開発地区は、屋内でも屋外でも思い思いの時間を過ごすことのできる心地よい空間である。

参考文献

- ・健康・スポーツのためのオープンスペースのデザイン (2019, 福岡) https://www.mext.go.jp/sports/content/20191224-spt_stiiki-1385575_00001-09.pdf
- ・南町田拠点創出まちづくりプロジェクト ホームページ <https://minami-machida.town/future/>
- ・南町田グランベリーパーク ホームページ <https://gbp.minamimachida-grandberry.com/>
- ・いこレポ 南町田グランベリーパーク徹底ガイド <https://report.iko-yo.net/articles/14495#bid-26>